

元慶の乱——古代出羽で最大

XII 日本諸国と植民地でのエミシ反乱

(3) 現地だけでは鎮圧できない大規模反乱

878(元慶2)年3月、出羽国で「元慶の乱」が勃発する。元慶の乱は、出羽国での古代の反乱では最大のものであり、38年戦争終結後の東北での反乱としても最大のものである。しかも現地だけでは鎮圧できず、坂東の兵も動員された。

(i) 亂の勃発拡大
(3月15日～6月上旬)

3月29日、出羽国守

藤原興世(おきよ)から

夷作叛乱す。今月十五

日、秋田城ならびに郡院

屋舎、城辺民家を焼損(*

火を放ちこわす)す。仍

(よ)つて且つは鎮兵を

以て防守し、且つは諸郡

軍を徵發す。」(『三代実

録』元慶2年3月29日

条)という飛駆の報告が

これに対する勅は、甘

く考えていたようである

(すでに3月17日の奏

上でも、叛乱の報は入っ

ている)。耕種の時期で

いる)。

この對する勅は、甘

く考えていたようである

(すでに3月17日の奏

上でも、叛乱の報は入っ

ている)。

この對する勅は、甘

く考えていたようである

(すでに3月17日の奏

上でも、叛乱の